

2030年までに持続可能でよりよい世界を実現するために、国連で採択されたSDGs(持続可能な17の開発目標)。今回の未来館だよりでは、持続可能な社会をめざし、地域で活躍されている“鹿児島の人”を紹介します。

## “タカラモノ”にする今日の暮らし



ASOBBAはらっぱの芸術学校 副代表  
土と命の食の学校 代表  
食生活改善推進員

Kakigi Yoshie 柿木 淑江

今号で紹介するのは、未来館で、講座の講師やボランティアサポーターとしてご活躍されている柿木淑江さん。お住まいは鹿児島市郡山。

「未来館に関わったからこそ、ここの山暮らし、里暮らしを楽しもうと思える。」

開館当初からの未来館とのつながりや、明治生まれのおばあさまと過ごした子ども時代の生活体験が、人とつながり、手仕事を楽しみ、手づくりを味わう柿木さんの暮らしの礎となっているようです。

現在78歳。子どもたちとの自然体験、農業体験、芸術体験は柿木さんのライフワーク。未来館のテーマ「こどもたちにどのような未来を？」にもつながる活動は、50年近くになります。

「ワクワクすることにはパッと動くのよ。やろうと思ったらやる。行こうと思ったら行く。その方が“タカラモノ”があると思うもの。」

日々の暮らしを“タカラモノ”にして、“生きる”を楽しんでいる柿木さん。その暮らしをヒントに、みなさんも今日を“タカラモノ”にしませんか？

## 食も信頼関係が大切

地域の方から届く旬の野菜。「また来た〜」と思うこともあるそう。「すぐに使わない分は干したり、お漬物にしたりするの。お隣のおじちゃんを作ったと思うと絶対に捨てられない。農家さんに敬意を表して、この人が作ったんだったら買ってみよう、この人が生産したものはきっとおいしいに違いない、そういう信頼関係が大切。生産者とのつながりは、消費者の応援したい気持ちや作り手の元気、農業をしてみたい子どもを生み出すかもしれない。毎週でもマルシェがあるといいと思うのよ。」



人参、えのき、大根、旬の時期に干して保存食として活用。



取材時に頂いたクッキーやビールの全て手作り！

「料理は実験だと思う。いろんな本からレシピも見れるけど、自分なりに、『ま〜た、適当が始まった』って言われるけどね。」

これからの時期におすすめ

旬の新生姜をまるごと味わう！

### 柿木さん流 生姜糖&生姜シロップの作り方

① 新生姜を薄く切って水を変えて2回茹でる。ゆで汁は2回とも別の鍋に取っておく。

② 生姜の6割ほどの砂糖を入れ、水分を飛ばしながら煮る。

「お砂糖がとけるまでは時々様子を見るぐらいで他の仕事をしても大丈夫よ。」

③ 一度とけた砂糖が再結晶を始めたなら竹べらでぐるぐる回す。くっついてきた生姜がぱらぱらになったら、バットにひろげる。

再結晶するときは感動よ！

④ 保存がきくようにオーブン(低い温度)で乾燥させて生姜糖のできあがり！

⑤ 砂糖が鍋肌に残っているところに①のゆで汁を戻し、砂糖を少し加え、シナモン、カルダモン、こしょう、グローブ、コリアンダー、クミンを加えて煮出したら、生姜シロップのできあがり！



## 物を大切にする 手仕事を楽しむ

手作りのネックレスは、着なくなった洋服のボタンや紬の端布を使って作ったもの。竹籠バッグは、一度壊れたけれど、和紙を貼り、柿渋を塗って自分で直し、30年ほど大切に使用しているもの。「高校の書道部が書き損じの和紙をほとんど廃棄していると聞いて、もらってきたの。綺麗な字も模様になっていい。擦れてきたらまた貼って、と思ってるの。次は張り子を作りたい。面白そうじゃない？」

## 世の中の変化を見つめ どう行動するか考える

新聞や本などを読んで気になったものは、メモを取り、スクラップするそう。「おそらく、新型コロナウイルス収束後、世の中ががらりと変わるだろうと思っているのね。だから、何がどう変わるかを切り抜いておこうと思ったの。」SDGsや環境問題に関する記事が増えている中で、日々の生活の中に平和を創るヒントが詰まっていることを実感。「共生、協調、そして協働できると、争いは生まれません。平和は、一人ひとりが考え、行動することでしか生まれえないと思うのよ。」



今年1月から始めたスクラップ。既に3冊目に入。表紙もオリジナル！

## 子どもが本当に豊かに幸せに暮らすことを手伝いたい

『子どもの権利条約』発祥のポーランドや『森のようちえん』発祥のデンマークの旅で、子どもを取り巻く環境を整える大人の役割の大切さを実感。「芸術や演劇は生きる力につながる」という強い信念。「子どもは生きるエネルギーをちゃんと自分たちで蓄えている。子どもに敬意を表しているし、子どもから学ぼうと思うのよ。」「子どもは、未来を創る人。だからこそ、子どもたちが将来、幸せな社会を築きたいという意志をもつためにも、今、豊かに幸せに暮らすことを手伝いたい、手助けしたい」と、子どもたちと活動されています。



「子どもたちへの想いは揺らがない」と笑顔で話す柿木さん。



未来館での展示案内でも、子どもとの会話を楽しんでいる。



自分たちで育てたものを、自分たちで料理して食べる「土と命の食の学校」。



わたしたちの日々の暮らしにも、SDGs達成のヒントが詰まっています。誰一人として取り残されず、幸せに暮らせる世界の実現をめざして、みなさんもできることから始めてみませんか。

